

7月31日(水)発行

15
YEARS
1904-2019

ミュ-ザ開館 15周年!

ほぼ

日刊サマ-ミュ-ザ

朝刊

Hobo Nikkan Summer Muza



©青柳聡

川瀬&神奈川フィルの強い個性を感じる熱演!

【7/30:神奈川フィルハーモニー管弦楽団】

神奈川フィルが常任指揮者の川瀬賢太郎と登場。プログラムには、スペインと関わりの深い作品が並べられた。

まずは、ボッケリーニの弦楽五重奏のための作品をベリオが管弦楽用に編曲した「マドリドの夜警隊の行進」。弦楽器のソロなど細微で緻密な管弦楽法で始まるこの作品は、聴き手の耳をステージ上の音楽に集中させるのにちょうど良い。

続いて、ロドリゴの「アラソレス協奏曲」。渡辺香津美がフルアコースティックギター(アコ-

スティックギターのようにボディ内部が空洞になっていてピックアップがついている)を用いて独奏を務めた。クラシック・ギターとは違い、スチール弦で、ピックアップで音を拾って、直接、アンプを鳴らす。オーケストラとはクロスオーバー的な共演となった。この作品ではフルアコとオーケストラとは融合しにくいように思われた。

シャブリエが書いた狂詩曲「スペイン」を、川瀬は、勢いに任せず、丁寧に描いていく。そして、最後にファリャの「三角帽子」第1、第2組曲。第2組曲終曲では最後に向かって、音楽は勢いを得、オーケス-

トラにも熱がこもった。弦楽器の首席奏者がアンサンブルの要となり、コミュニケーションを図る。

アンコールにビゼーの「カルメン」のトレアドール。きっちりとした身振りの詰まった演奏。「闘牛士の歌」での第1ヴァイオリンのハットするような美しさは、石田泰尚、崎谷直人のツアー・トップの音楽性の浸透のたまものであろう。

スペイン・プログラムといっても、殊更、スペインを意識せず、自分たちの音作りをしていたところに、川瀬&神奈川フィルの強い個性を感じた。

(山田治生/音楽評論家)



終演後、サインとともに、渡辺香津美(左)&川瀬賢太郎(右)

来場者の声

川瀬さん、ダブルのコンサートマスター、とても贅沢な神奈川フィルの編成、そしてギターの渡辺さん。とても素敵な音楽を聴くことができました。川瀬さんパワー全開、最後の迫力すごかったです。(60代・toko) / スペイン・プロ、最高!仕事をサボって来た価値がありました。これだけまとめてスペインは聴けません(50代・kiyo) / 川瀬さんの練られたプログラムとても楽しかった。前半のアラソレスは組み合わせが新鮮。後半の「三角帽子」、華やかで明るく楽しいわが神奈川フィルがスパークする瞬間をみせられました。(50代・Mimi) / ラストの終幕の踊りがまさにオケ全員で踊っているようでした。50代・せいろく) / 今日は夏休みをとってコンサートにきましたが、とても良かったです。①神奈川フィルの新たな魅力を発見できたこと②ギターとオーケストラの合奏が新鮮でとてもマッチしていることを知ったこと③ふだんと違ったレパートリーに出会い、気分が爽快となった。(60代・MM21線) / ひとりめの産休、ふたりめの産休の時と今日は3回目のサマフェス。すっかり虜になりました。やっぱり生はいいです。心のエネルギーをもらいます。(30代・みみちゃん)

洗足学園音楽大学 ~オーケストラとバレエが織りなす夢物語~

8/1(木) 18:30開演(17:45開場) ミュ-ザ川崎シンフォニーホール



NEXT!
サマ-ミュ-ザ
明日のチケット情報



指揮/秋山和慶

バレエ/
牧阿佐美バレエ団
谷桃子バレエ団
東京シティ・バレエ団
洗足学園音楽大学バレエコース学生
管弦楽/
洗足学園ニューフィル
ハーモニック管弦楽団

- プロコフィエフ:「ロメオとジュリエット」組曲から
- プロコフィエフ:「シンデレラ」組曲から
- ハチャトゥリアン:「仮面舞踏会」組曲から
- ハチャトゥリアン:「ガイヌ」組曲から

当日券あり

A席 200枚程度
S席 売り切れ
A席 800円
◎電話予約:なし
◎4階カウンター/10:00~17:00販売
◎当日券カウンター17:30~販売
※17:00~17:30の間は販売を休止いたします

